



高橋余一の「生活絵巻」

11 子どもの遊び



(上の絵)縄飛び
可成りの太さの六、七尺の荒縄の両端を持って大きく空間に輪をつくる。その合間を縫って上手に飛び越える。
現在もある一人飛びの遊び方もあった。
(下の絵)手毬つき
綿や布切れを芯にしてまるめその上を色系で美しく模様を力ガツたものや明治末期に出廻ったゴム毬を絵のように股にくぐらせてつく。

「生活絵巻」には、子どもの遊びがいくつか描かれています。上の絵はわら縄で縄跳びをする様子で、下の絵はまりつきをしているところです。

当時の遊びは、男の子はこま回しや陣地取りなどで、女の子はあやとりやおはじきなどでした。

絵の女の子は、結い髪やおかっぱの髪型に、着物は前垂れをつけて、綿入れ(綿を詰めた防寒着)を着ています。

陽だまりの中で、楽しげに遊ぶ子どもたちの唄声が聞こえてくるようです。

■ 手毬つき

